

慶応元年「御意書（山口病院総管任命の事）」（日野家文書 70）

いやす
なおす
なおもつ
たもつ



文書館資料にみる
病気・医療・健康

4

医師と人々④

藩医日野宗春と日野家文書

日野家文書（当館蔵）は、萩藩で代々藩医を務めた日野家に伝来した資料です。同家禄高は5人扶持40石、寺社組や手廻組に属し、藩医の中では中位に位置する家でした。

幕末維新时期に活躍したのが日野宗春（ひのそうしゅん、1827～1909）です。大島郡久賀村（現周防大島町）の地下医山県玄敬の三男周平として生まれ、のち日野家の養子となります。

宗春は、嘉永3年（1850）3月～4年8月、藩医青木周弼（幕末期、萩藩医学館整備に尽力した蘭方医）に蘭方医学を学び、さらに青木の推挙で大坂の緒方洪庵塾（適塾）に入塾しました（同4年9月～5年5月）。安政元年（1854）8月～2年3月には長崎で蘭方外科を学びます。宗春は、当時一級の医師を師とし、医学を学んだ人でした。長崎から帰国後、宗春は萩藩医学校・好生館の館員となります。以後、主な活躍は以下のとおりです。

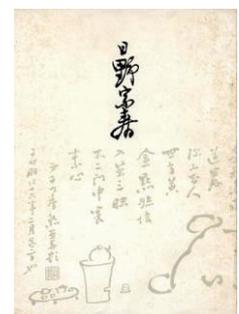
- ・安政5年（1858）：領内でコレラ流行、治療に尽力。
- ・万延元年（1860）1月：好生館舎長。本草局御用掛。
- ・文久3年（1863）5月：赤間関病院（攘夷戦に備え設置された軍事病院）勤務。
- ・同年9月：七卿付き侍医（三条実美など「七卿落ち」公卿付きの医師）。
- ・元治元年（1864）7月：世子毛利定広上京時の従軍医（禁門の変の前）。
- ・慶応元年（1865）4月～明治元年（1868）3月：山口病院（藩の軍事病院）の総管。
- ・明治2年5～7月：東京の健武隊病院（東京に派遣された健武隊の附属病院）勤務。

明治期の宗春は、県内小学校で使用する博物標本の製造配布に尽力したほか、防長女子教育協会理事を務めるなど、多方面で活躍しています。

【参考】日野巖著『日野宗春』



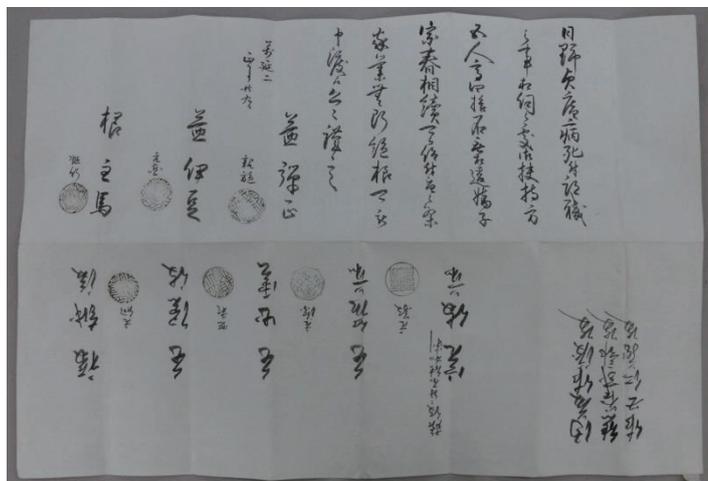
日野宗春肖像写真（日野巖『日野宗春』より引用）



日野巖著『日野宗春』

宗春子孫の日野巖氏が著した宗春の略伝。宗春の略歴を知る貴重な著作（昭和33年発行）。

日野家文書は、当館が所蔵する萩藩医の文書を代表するもののひとつです。藩医の活動に関わる文書だけでなく、薬剤調合用の秤や幕末維新期の古写真ガラス乾版など、貴重なモノ資料を含む点が特徴です。そのいくつかを紹介します。



1. 萩藩加判衆連署奉書 *日野家文書 70

万延 2 年（1861）1 月 29 日、宗春が日野家家督を相続することを認めた藩の奉書です。日野家文書には、以後宗春が、藩医としてさまざまな仕事を命じられたことを示す文書が数多く残されています。



2. 秤 竿長さ 20.2 cm *日野家文書 146

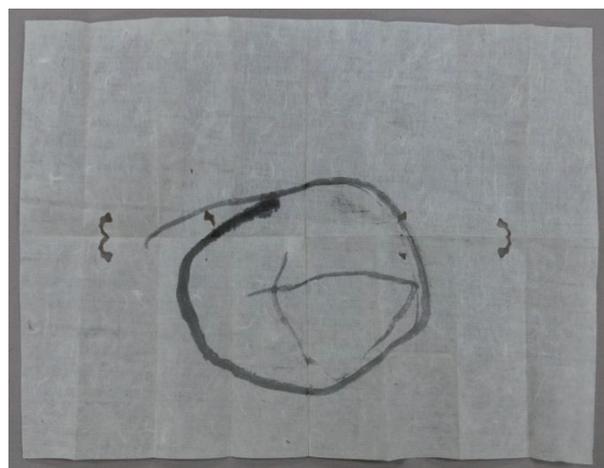
日野家文書に残る薬剤調合用の秤です。宗春が用いたとされています。納箱の蓋裏に「進脩薬室 日野調合所仕」の墨書があります。当館が所蔵する数少ない医学関係のモノ資料のひとつです。



3. 健武隊士写真 *日野家文書 131

日野家文書には、幕末維新期に撮影された古写真のガラス乾版が残っています。その 1 枚が、健武隊士と日野宗春を写した写真です（左奥が宗春）。宗春が東京で健武隊病院に勤務した明治 2、3 年頃撮影されたものでしょう。

*この写真は当館 web サイトからダウンロードできます。



4. 毛利斉広公筆西瓜図 *日野家文書 68

この絵は、文化 14 年（1817）6 月 10 日、12 代藩主斉広が 4 歳の時に描いたとされる西瓜です。当時の日野家当主は宗春の 2 代前の宗宅。日野家が、藩医として藩主一族のそば近くで仕えていたことを示す史料です。